

特に断らなければ $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ とする.

- $L := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid |x| \leq 1, y = \pm 1\} \cup \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid x = \pm 1, |y| \leq 1\}$ とおく.
 - L を図示せよ. また L が囲む有界領域 Ω を図示せよ.
 - L を表すパラメータ $\mathbf{l}: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ で, 周期的, 区分的に正則であり, $\partial\Omega$ の境界の向きを表すものを一つ求めよ.
(ヒント: 4 つに区切って場合分けして定義するとよい) さらに, その周期を求めよ.
 - (2) で定めたパラメータに対し, $\mathbf{l}(t) \in L$ における法ベクトル $\hat{\mathbf{n}}(t)$ を求めよ.
 - $\mathbb{R}^2 - \{\mathbf{0}\}$ 上のベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{\mathbf{u}}{|\mathbf{u}|}$ に対し, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, d\mathbf{l}$ を計算せよ.
- 次の領域 Ω とベクトル場 \mathbf{V} に対し, 境界 $L := \partial\Omega$ の向きを表す周期的な正則パラメータ \mathbf{l} を一つ求め, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, d\mathbf{l}$ を計算せよ.
 - $\Omega := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid (x-a)^2 + (y-b)^2 < 1\}$, $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} x+y \\ -y \end{pmatrix}$ (2) $\Omega := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid \frac{x^2}{4} + y^2 < 1\}$, $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} x+2xy \\ x-y^2 \end{pmatrix}$
 - $\Omega := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid 1 < |\mathbf{u}|\}$, $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{1}{|\mathbf{u}|} \begin{pmatrix} y \\ -x \end{pmatrix}$ (問題 3 も参照せよ)
- $r > 0$ に対し, $L_r := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid |x| \leq r, y = \pm r\} \cup \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid x = \pm r, |y| \leq r\}$ とおく. 問題 1 の L は L_1 である.
 - L_1 と L_2 で囲まれる有界領域 Ω' を図示せよ.
 - L_1, L_2 のパラメータ $\mathbf{l}_1, \mathbf{l}_2$ で, 周期的, 区分的に正則で, $\partial\Omega'$ の向きを表すようなものを一つ求めよ.
 - \mathbf{l}_1 と問題 1. (2) のパラメータは L_1 に同じ向きを定めるか?
 - Ω' の補集合 $\mathbb{R}^2 - \Omega' := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid \mathbf{u} \notin \Omega'\}$ (講義では $(\Omega')^c$ と書いた) は有界領域ではないことを示せ.
- L を正則な曲線とし, \mathbf{l}, \mathbf{m} を L を表す正則パラメータとする. また \mathbf{l}, \mathbf{m} に対応する法ベクトルを $\mathbf{n}_l, \mathbf{n}_m$ とする.
 - \mathbf{l} と \mathbf{m} が L に同じ向きを定めるとき, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n}_l \, d\mathbf{l} = \int_m \mathbf{V} \cdot \mathbf{n}_m \, d\mathbf{m}$ を示せ. (教科書 p. 31 の補題 1.44 参照)
 - \mathbf{l} と \mathbf{m} が L に逆の向きを定めるとき, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n}_l \, d\mathbf{l} = -\int_m \mathbf{V} \cdot \mathbf{n}_m \, d\mathbf{m}$ を示せ.
- 曲線 L の正則パラメータ \mathbf{l}, \mathbf{m} について, この二つが同じ向きを表すとき, $\mathbf{l} \approx \mathbf{m}$ と書くことにする. \approx は同値関係であることを示せ. すなわち, 以下のことを示せ:
 - $\mathbf{l} \approx \mathbf{l}$ (ii) $\mathbf{l} \approx \mathbf{m}$ ならば $\mathbf{m} \approx \mathbf{l}$ (iii) $\mathbf{l}_1 \approx \mathbf{l}_2$ かつ $\mathbf{l}_2 \approx \mathbf{l}_3$ ならば $\mathbf{l}_1 \approx \mathbf{l}_3$
- $\Omega \subset \mathbb{R}^2$ を, 正則な閉曲線 L_1, \dots, L_k で囲まれた有界領域とする. 境界 $\partial\Omega = L_1 \cup \dots \cup L_k$ の向きは, 法ベクトルが Ω^c に向かうような向きとする, と約束した. ところで, そもそも「 Ω^c に向かう」とは (直感的には明らかだろうが) 厳密にはどのように定義したらよいか?

(提出の必要はありません)

補足. 講義で与えた線積分 (その 2) の定義 6.6 が, 教科書の定義 1.43 と同一のものであることを説明しておきます. 一般に曲線のパラメータ \mathbf{l} に対し, 法ベクトル $\hat{\mathbf{n}}(t) := \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix} \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) = \begin{pmatrix} l_2'(t) \\ -l_1'(t) \end{pmatrix}$ は $|\hat{\mathbf{n}}(t)| = \left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right| \cdots (*)$ をみだし, $|\hat{\mathbf{n}}(t)|$ は t に依存して変化しますが, \mathbf{l} が正則なら 0 にはなりません. よって $\mathbf{n}(t) := |\hat{\mathbf{n}}(t)|^{-1} \hat{\mathbf{n}}(t)$ というベクトルが定義され (分母が 0 にならない), $\mathbf{n}(t)$ は $\hat{\mathbf{n}}(t)$ と同じ向きのベクトルで, t によらず $|\mathbf{n}(t)| = 1$ です. この \mathbf{n} が教科書 28 ページの単位法ベクトルです. 「単位」というのは長さが 1 であることを指します. \mathbf{n} の定義と (*) より $\hat{\mathbf{n}}(t) = |\hat{\mathbf{n}}(t)| \mathbf{n}(t) = \left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right| \mathbf{n}(t)$ ですから, 講義の定義 6.6 の意味での線積分 (その 2) は $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, d\mathbf{l} = \int_a^b \mathbf{V}(\mathbf{l}(t)) \cdot \hat{\mathbf{n}}(t) \, dt = \int_a^b \left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right| \mathbf{V}(\mathbf{l}(t)) \cdot \mathbf{n}(t) \, dt$ と書けます. これは教科書の定義 1.43 に一致します. 具体的に計算してみるとわかりますが, 後者だと $\hat{\mathbf{n}}(t)$ を $\left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right|$ で割って $\mathbf{n}(t)$ を求めたあと, もう一度 $\left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right|$ をかけることになって二度手間なので, 講義では前者を採用しました.

幾何入門 レポート問題 6 (2018 年 5 月 25 日)

担当：境 圭一

$\Omega := \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid 0 < y < 1 - x^2\}$ とおく. $\partial\Omega$ を表す区分的に正則な周期的パラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ で, Ω の境界の向きを表すもの一つ求めよ. この l を用いて, ベクトル場 $V(u) := u$ に対し, 線積分 $\int_l V \cdot n dl$ を計算せよ.
(6/1 の 3 限開始時まで提出してください)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/18_geometry/18_geometry.html